

回覧・重要

令和3年(2021年)度 第五回 定例役員会 2021年5月1日(土)

～2021年4月26日(月)作成～

< 館長報告 >

館長 土井 承夫(どいよしお)

<速報～フレイキングニュース～Breaking News～>

突然ですが、本日4月26日15時に慶應義塾大学 日吉メディアセンターの担当課長 杉山良子(すぎやまよしこ)氏より私宛に下記の様な慶應義塾プレスリリースがメールで送られてきました。非常に重要で興味あるタイムリーな内容なので速報として掲載いたします。この研究成果は鳥取県内では未だ報道されておらずタイミング的にこの報告書で配信するのが良いと考えました。行政、報道関係者の皆様には特に読んで頂きたい内容です。宜しくお願い致します。巻末にプレスリリース全文のp.d.f(2ページ)を添付しております。

新型コロナウイルスへの都道府県の対応を評価し ランキング化(鳥取県が一位)

2021/04/26

慶應義塾大学

新型コロナウイルスへの対応は地方自治体に任されており、影響、対策、その効果の違いも地域によって大きくなっています。慶應義塾大学商学部の濱岡豊教授は「健康影響」「対策」「市民の協力」「経済影響」の観点から10指標を選定し、47都道府県の新型コロナウイルスへの対応状況を評価し、ランキング化しました。

総合ランキング上位には鳥取県、島根県、下位には大阪府、東京都が位置づけられました。最上位の鳥取県は「累積陽性者あたり累積検査人数」「人口あたり受入確保病床数」という「対策」についての2項目が突出しているほか、全般的に良好な状況となっていました。一方、大阪府はいずれの指標も低くなっており全体的に対策を立て直す必要があることが明らかになりました。

台湾やニュージーランドなど検査体制の強化によって、拡大を抑えることに成功している国があることは知られていますが、国内でも同様の対策を行っている鳥取県が上位にランキングされました。報道機関による「コロナ対応で評価する政治家ランキング」などでは知名度が重視されがちですが、データに基づいて実績を評価し、海外および国内での成功事例から学んで対策を進める必要があります。

本研究成果は『科学』(2021.5、岩波書店)に掲載されました。
プレスリリース全文は、以下をご覧ください。(添付の通りです)

～皆様には益々お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。
いよいよ新公民館建設計画がスタート致しました～

既にご報告した様に新公民館建設資金の根幹をなす「倉吉市コミュニティセンター助成金」の最終審査(市→県→東京)結果は合格・採択となり、申請通り最高額の1,500万円の支給が決定しました。併せてもう一つの市の補助金「自治公民館施設整備補助金90万円」も同時に決定しました。これにより今年度の総会資料で承認された本建設資金の総額46,047,000円は100%確保できました。毎月報告している「自主的な寄付金」はこれ以外の「プラスアルファ(予備)」の資金でありこれが増えれば増える程、市の低利融資金の返済額と返済期間が減っていく事になります(勿論、その返済に皆様から強制的に頂くお金はありません)

(5ページに上記2つの倉吉市助成金の交付通知コピーを添付します)

これにより公民館建設に直ちに取り掛かっております。その経緯とこれからの細かな予定・要領について次の通りご連絡いたします。

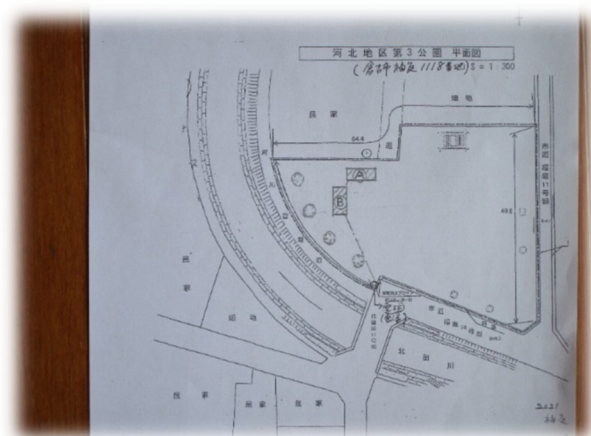
＜現公民館にある荷物の仕分けと引っ越し(荷物の搬出・搬入)について＞

(1) 4月10日(土)の15時から、引っ越し業者を呼んで公民館各部長、子供会、福寿クラブ関係者等の出席のもとに現公民館にある荷物の仕分け作業を行った。(引っ越し搬出するものと廃棄するものを整理分別した)

(2) その荷物の引っ越しは5月10日(月)の12時から15時の間にアート引越しセンター(鳥取支店)が行う。この業者に決めたのは館長の私が過去2回(関東→倉吉)この業者を使った実績があり、同社規定により今回約30%の値引きを得られるため。

<その荷物の保管と仮事務所の設置場所について>

4月23日（金）にコンテナ倉庫2個を下図の様に3号公園内に設置した。㊸は事務所とし、コピー機、防災放送設備、配布物仕分けスペース等を置く。電源配線の手配は完了し倉吉市の公園占有許可証は取得済み（4/20～12/28の期間）㊹は倉庫として使用する。3号公園は7班、8班、5班に囲まれた北田川に沿った福庭にある倉吉市の公園。（倉吉市福庭1118番地）
図面と写真は下の通りです。



<地図>



<手前が事務所の㊸
向こう側が倉庫の㊹>

この倉庫と事務所の使用他に関する窓口は館長の土井承夫です。携帯番号は080-4261-1979です。使用を希望される方はこの番号に遠慮なくご連絡下さい。

<建設工事期間（6か月間）の代替会議・集会施設について>

本年6月からの解体工事から新築工事が完成する11月末までの6か月間の会議・集会施設は次の通りに契約致しました。

(1) 社会福祉法人 和（なごみ）

多機能型事業所 ボン・チャンス 殿（倉吉市福庭町1丁目365-2、
「福庭バス停前」～公民館14班区域内 電話:0858-26-7530、FAX:0858-
26-6102 ご担当者： 事務長の伊藤 秀祐 様

(特記事項) 1. 毎月第一土曜日18時30分からの定例役員会はこの施設を使わせて頂く事で先方様のご了解を頂きました。会場はその施設内の「食堂」で30人の役員会でも楽に開催できる広さです。

勿論コロナ対策のソーシャルディスタンスも確保できます。
また、冷暖房完備です。正面玄関を入れて右に進み突き当りで
左に折れると「食堂」があります。近代的で清潔感のある食堂です。

2. 6月5日(土)、7月3日(土)、8月7日(土)、9月4日(土)、10月2日(土)、11月6日(土)の18時から20時の各2時間を予約させて頂きました。役員会開始は通常通り18時30分からです。

3. 役員会以外の会議集会でも施設が空いていれば使わせて頂ける事になりました。また、上記の役員会を含めて使用料は要らないとの絶大なるご厚意を頂きました。伊藤事務長からは「和(なごみ)グループが経営しているレストラン・カフェ「白壁倶楽部」のご利用をお待ちしております」とのお話も頂きました。

4. 常務理事で統括施設長の八渡和仁(やわたりかずひと)様に梅田茂信副館長と共に御礼のご挨拶をさせて頂きました。

*このボンシャンス殿の施設予約は館長の土井承夫まで人数・日程が分かり次第、すみやかに連絡ください。伊藤秀祐事務長様と調整致します。(土井の携帯：080-4261-1979)

<ボンシャンス殿が使用できない時は下記の2団体様と調整させて頂きます>

(2) 学校法人松柏学院 倉吉北高等学校 殿

～校長の藤原辰広様と理事長の佐藤義和様のお二人と理事長室で面談させて頂き、上記のボンシャンス殿が利用できない場合に学校の行事等がなければ松柏会館の会議室を使わせて頂く事をお願いした。学校なので夜はセキュリティの関係から難しいが昼の時間帯はその都度調整させて頂く事になった。(本件は上野賢一事務長もご承知)

(3) 上井コミュニティセンター殿(旧上井公民館) 田中佑和 館長、福井稔章 主事、福本朋美 主事殿をお願いした。所定の手続きに従って予約する。

<福庭自治公民館新築特別寄附金(自主的な寄附)の集計状況>

この自主的な寄附金はプラスアルファー、つまり予備の財源です。極端な言い方をすると「ゼロ」でも新公民館は完成します。然し、これが増えれば増える程低利借入金の返済額と返済期間が減っていくという重要な財源でもあります。その金額に応じて寄附金銘板にお名前を刻(こく)し永く新公民館に掲げます。

住民の皆様からの上記の自主的な寄附金の集計状況をこの後もこの館長報告でお伝えしていきます。受け付け窓口は館長の私、土井承夫です。(26-0770、携帯 080-4261-1979) お電話を下されば、私が戴きに参ります。

この寄付金の受付期限を新公民館が完成する令和 3 年 11 月末日と致します。また新公民館完成後も様子を見ながら引き続き受け付け致します。

*令和 3 年(2021 年) 4 月 30 日 (金) 現在の集計結果(総計)は次の通りです。

(1) 寄付頂いた世帯数： 149 世帯 (全体の約 35.9%)

(2) 寄附金の合計： 469 万円

(3) 個々の寄付金額の概要：最高額：30 万円 (1 名) 30 万円 (福庭青年団) 25 万円 (2 名：1 名は福庭、もう 1 名は福庭以外の方です) 10 万円 (13 名) 5 万円 (10 名)、3 万円 (21 名)、2 万円 (15 名)、1 万円 (85 名・内 1 名は福庭以外の方です)

～シリーズ「心に残った一曲」(第 10 弾)～

公民館新築記念イメージソング

「ふくぼこうみんかん」マイソング 2021～「ほらね、」

作詞：伊東 恵司 (いとうけいし) 作曲：松下 耕 (まつしたこう)

公民館新築財源の総額 4600 万円が揃って新公民館建設計画が実際にスタートしたら、この「ほらね、」という混声合唱曲を新公民館のイメージソングとして推奨しようと考えていました。今、この曲を皆様と心静かにかつ心を込めて歌いたいと存じます。

2011 年の東日本大震災犠牲者への鎮魂の音楽として、まず皆様が良く知っておれる「花は咲く」が有名になりました。そして混声合唱曲として福島県の中学生が創った「群青 (ぐんじょう)」という曲が、「ちりちりバラバラとなった友達が遠い場所で同じ空を見つめて『あたりまえが幸せと知った』という人の想い」を表現しました。一方で、この 10 年間合唱曲の作曲で先頭を走ってきた松下 耕 (まつしたこう) が「ほらね、」という題の珠玉の”うた”を発表しました。「悲しみ」も「涙」も「寂しさ」も「眠れぬ夜」も「ゆっくりとそっと」歌って分かち合ってくれる友達がいる。そんないつもそばにいる大切な友達・・・そういう存在が新しい公民館であって欲しいと私は思いました・・・・(次葉につづく)

「心に残った一曲」(第10弾) 混声四部合唱曲より

公民館新築記念イメージソング

「ふくぼこうみんかん」マイソング2021～「ほらね、」

作詞：伊東 恵司 (いとうけいし) 作曲：松下 耕 (まつしたこう)

川は風と語り合っているよ 鳥は花と触れ合っているよ
日差しは木の葉とじゃれあっているよ 雨は蛙と頷き合っているよ

ほらね
僕らは一人じゃない
きっとね
誰も一人じゃない

それでも悲しい日があったら 涙が止まらない日があったら
ゆっくりそっと歌を歌おう 思いで詰まったあの歌を
うたはあなたの大切なともだち
いつもそばにいる大切なともだちだから

魚は波と競い合っているよ 山は雲と呼び合っているよ
窓はピアノと微笑み合っているよ 雪は灯りと見つめ合っているよ

ほらね
僕らは一人じゃない
きっとね
誰も一人じゃない

それでも寂しい夜があったら どうしても眠れない夜があったら
ゆっくりそっと歌を歌おう 微笑み詰まったあの歌を
うたはあなたの大切なともだち
いつもそばにいる大切なともだちだから

(FINE)